平成17年度　8020公募研究報告書抄録

報告書名：頭頸部がんおよび食道がん患者に対する口腔ケアの施行とその効果に関する研究
－第一報食道がん患者に対する口腔ケアの効果－

研究者名：坂井謙介[1),4),5)]、長谷川泰久[2)]、篠田雅幸[3)]、兵藤伊久夫[2)] 上嶋伸知[1),4)]、長縄弥生[1)]
所　　属：愛知県がんセンター中央病院　[1)]歯科 [2)]頭頸部外科 [3)]胸部外科
[4)]名古屋大学大学院医学系研究科頭頸部感覚器外科学講座顎顔面外科
[5)]坂井歯科医院

【目的】

食道がん手術は，頸部，胸部，腹部の3領域に手術操作が及ぶため，侵襲度の高い手術の一つであり，術後管理が難しく，誤嚥性肺炎や感染などの術後合併症が多いとされている．また，多くの術後患者において，摂食嚥下障害が認められ，QOL の低下を招く．一方，誤嚥性肺炎や術後感染の予防に口腔ケアが有効であると考えられている．しかし，食道がんにおける口腔ケアの有効性に関する報告は少ない．今回われわれは食道がん手術患者に対して術前より専門的口腔ケアを施行し，術後合併症の予防などに関する検討を行った．

【対象と方法】　当センターで食道がん手術を施行した患者で，専門的口腔ケア未実施症例（2003年1月 ～ 12月，24例）と，実施症例（2004年10月 ～ 2005年6月，21例）について比較検討を行った．

専門的口腔ケア実施症例は，入院後，手術4日前と手術前日に歯科受診した．口腔衛生評価を行い，口腔清掃，口腔保健指導，および歯科処置を行った．術後は，歯科衛生士の指導を受けた看護師により統一した口腔ケアを行った．

各群の患者につき，術後一週間以内の肺炎，発熱，気管内細菌検査などについて調査を行った．

【結果】

食道がんの周術期に対する口腔ケア介入群と非介入群の比較において，術前の専門的口腔ケアにより気管内細菌検査で検出細菌数の減少（2.22→0.50）ならびに検出菌種の減少（1.52→0.57），周術期での口腔ケアで発熱の減少（7例→4例）を認めた．術前の専門的口腔ケアにおいて，plaque control record の改善率が平均より小さかった口腔内環境非改善例では発熱，気管内細菌検査陽性例が多く認められた．

【考察】

食道がん手術患者に対する口腔ケアは一定の効果があると考えられたが，今後，症例数を増やし，その効果を明らかにすることで，がん治療における口腔ケアシステムを確立していきたい．